

■議事概要（令和5年度第1回滋賀県ふるさと・水と土保全対策推進懇話会）

1 開催日時、場所

日時：令和5年(2023年)7月25日(火)10:50~15:00

場所：(現地調査) 走井地区

(会議) コミュニティセンター金勝<栗東市御園982>

2 出席者

委員：藤原正幸、上田洋平、島林敏雄、杉田英子、内記真美、長瀬正弘、前川真司、
松田規久子

明日の走井を考える会：宮城座長、奥村副座長、小林事務局、高橋広報

3 議事概要

■議事1 走井地区の取組への意見交換について

質問1 歴史的行事、御田講や行い講などについて教えてください。

回答 農業に付随する行事で、以前はお昼に小豆粥などの食べ物を提供していたが、現在は簡素化されて、神事に関する行事だけ残している。全部は無理でもある程度の行事は残していく必要があると考えている。

質問2 あじさいロードでは長い距離を丁寧に育てているが、観に来られる人はどの程度か、またインスタグラム等で発信し、来町を呼び掛けているのか。

回答 来客はまだ少ない。あじさいが大きく育ったら東屋も建てたい。6月はブルーベリー農園が一番良い時期で、かつあじさいも綺麗で、相乗効果も出る時期として期待している。

質問3 駐車場を整備して、写真等を撮りやすくする工夫は。

回答 来客が少ないため、現状では適当に駐車しても特に問題はない。まず広報として、近隣に少しずつ広げて、より多く来ていただけるように考えている。

質問4 活動を継続するうえで、担い手の育成や将来をどう考えているのか。

回答 後継者については一切考えていない。今の活動を楽しくやっている。将来も活動を残してほしいが、先のことは難しい。今のうちに基礎を作るだけ。そのうち後の人が考えて、やってくれるだろうという希望は持っている。

意見5 山の守の仕方、田んぼの守の仕方は他所から来ても分からないから、引き継いでいったほうが良い。

祭りなど、一堂に会する機会を作っている。これは神事の側面と、1年間にあった事態変化をみんなで調整する場になっている。

※事態変化：地域の中のリーダーやメンバーの交代あるいは様々な事件や出来事

質問6 近隣と交流して参考にしたことはあるか。また大学との連携で問題はないか。

回答 先を走っている自覚があるので参考にしたことはない。最近も新たに左義長に一般の人を受け入れた。他所で我々以上のことをされたら参考にしたい。

学生に多く来ていただき、若い人の意見を尊重することで活性化が図られる。社会人になっても関係が長く続くようになりたい。

質問7 活動の資金的な面で、現在は補助金等でやってこられた。今後は、負担が少なく無理なく未来のために自立できる仕組みを作ることが大切だと思うがどうか。

回答1 各イベントで参加費をいただき、次の活動につなげている。将来は集落のオーナー制を考えている。1年間でいろいろな行事に参加してほしい。

今いただくお金は少ないが、活動を広めることで支援事業の可能性も広がる。

意見2 出資金や参加費はお金に思いが乗っている。お金を払うことで、最近調子はどうとか、手伝いましょうかなどの声も集まる。全国では高齢化などで限界集落が増えている。走井が切り開いていく地域になってほしい。

意見8 守山市の中で一番小さな集落だが、祭りや運動会では、集落外に出た人もその日は戻ってきて子連れで参加するイベントをいくつか実施している。今日は走井に共感すると共に、もっと頑張ろうと思った。

質問9 観光面では、若い方や海外の方は、巡るだけでなく、もう一步踏み込んだ体験を求めている。そうすると住民の皆様の協力を仰ぐことが一番難しいと思う。いかに住民の皆様の理解をいただいて事業を進めているのか。

回答1 走井も一致団結しているわけではないが、我々が地道に活動を続けること、また学生やボランティアが来ていただく影響で、参加する住民は増えている。

回答2 体験型として、周辺で農泊をしていただき、稲刈り大会も考えている。また近くにバンガロー村があり、フォレストアドベンチャーではマウンテンバイクのコースもできる。金勝寺、湖南アルプスもあり、それらを巻き込んだ人々の交流できればと考えている。

意見10 棚田で美味しいお米を作っているのだから、ぜひSNSなどで発信してほしい。また近くには湖南アルプスがあり、今トレイルランが流行っているのだから、関連したイベントを考えてほしい。

■議事2 中山間ふるさと・水と土保全対策事業、

中山間ふるさと・水と土保全推進事業 事業実施計画について

意見 滋賀の棚田を守る持続可能な制度設計をできないか。ボランティア制度だと参加費等のお金を徴収しづらい。棚田の多面的機能を守る事業として、体験させていただき参加者がお金を払ってでも参加したいコミュニティビジネスとして成り立つように考えてほしい。棚田米を返礼品として渡すなど、参加者に何か手元に残るようなことを考えてほしい。

—以上—